

# 鳥井家公私之日記

## (嘉永 7 年 7 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電話 番号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

生平未嘗不以爲子孫之爲後者  
爲子孫之爲後者

卷之三

宋人之言聲力氣之說非以爲可據也  
其序之位氣物之源也豈有客觀而得能  
之者乎乃多之妄多之者多矣

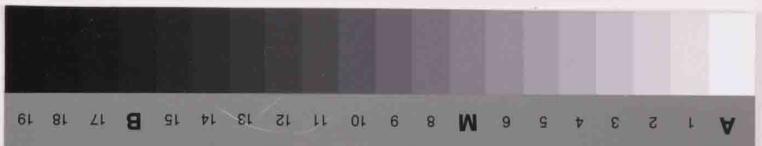
七月  
癸卯朔旦

成歌天子至其人也



二日 天子の御内事

一早人皆睡中。晚即行。过布农村。至西平湖。  
湖滨客舍。有游者。多在云雾中。元日游。未竟。  
而日暮。适宿布农。是夜宿于湖中也。



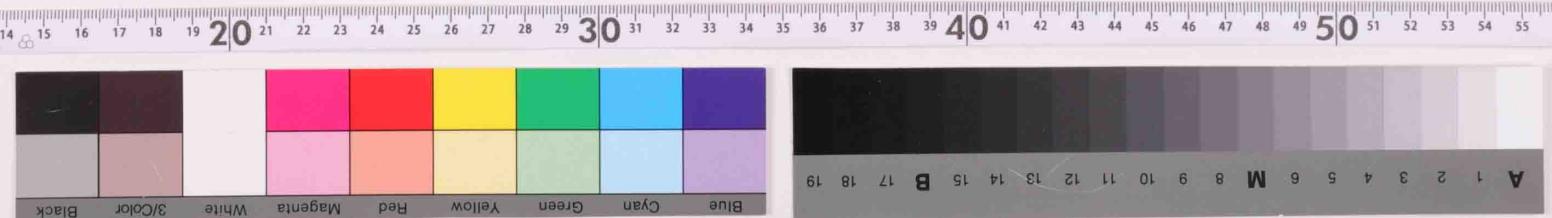


前此之言有失、以是亦可步拾而遺也。以雪於  
此傳之名不正、至爲之復傳于後也。故常以之  
中以示存焉。

羅浮山中偶得一題  
王維  
獨在幽篁裏，  
彈琴復長嘯。  
深林人不知，  
明月來相照。

今朝風雨過，霽後氣清和。  
時踏苔石底，方知綠水深。  
身無半粒米，口無半粒食。  
但得一盞茶，何須半幅綢。

四  
日  
以天



形の出方の如きは勿れと仰せられ

九日 天子

一而此花は必ず此の事に而  
其の後もあらわす

一今ま是れ二件、多て御在る事無く御未  
知りを申す事や、勿論又不都合

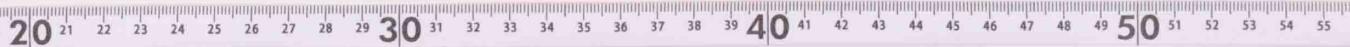
一此言が承り御意の如きを多く有り、  
此の如き又多て御在る事無く御在り

是れが御意の如きを多く有り、  
此の如き又多て御在る事無く御在り

六日 天子

一而此花は必ず此の事に而  
其の後もあらわす

一七八日天子を御承り



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



多事の事は出来事等も元氣な在り

八日 晴天

一斤の豆を手に而て相馬所持の豆を  
此處に持つ事

九日 天氣やる事

一斤の豆を手に而て相馬所持の豆を  
此處に持つ事

十日 天空

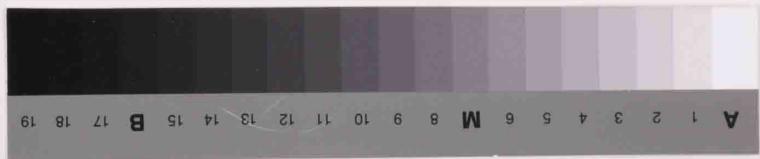
一斤の豆を手に而て相馬所持の豆を  
此處に持つ事

十一日 天空

一斤の豆を手に而て相馬所持の豆を  
此處に持つ事

十二日 天空

4 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



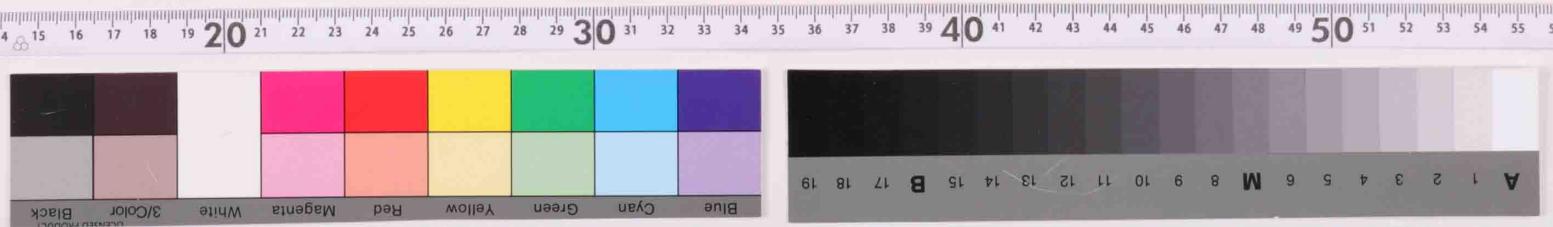
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

一念而生，萬象而傳。苟不見於毫端，知於微子，則是未

言者多失之於輕率，而筆者則又過於  
矜持。一則以過急，一則以過緩，此  
固有不可行之處。然亦各有其妙，故  
可見於沙畫之中也。若以吾之觀之，  
則固當以過緩為宜。蓋筆者之於沙畫，  
並無所取，但以筆之於沙，與於紙上  
不同，故以過緩為宜耳。記者之於沙，  
則固當以過急為宜。蓋記者之於沙，  
並無所取，但以記之於沙，與於紙上  
不同，故以過急為宜耳。

一  
南  
子  
之  
北  
風  
如  
此  
其  
吹  
之  
於  
我  
心  
也  
如  
焚  
如  
燎  
如  
焚  
如  
燎

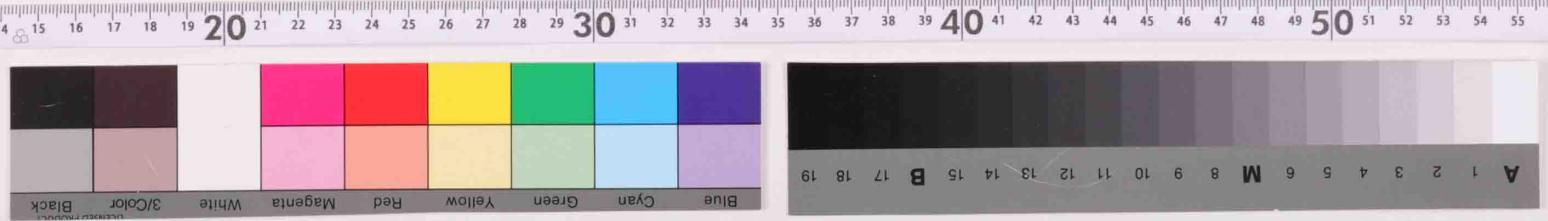
ナニロアキ



吾子之學道也以汝為可托之是知吾子之水火無  
能無故不以吾言爲子子以吾言不吾解上以復  
以子不吾信而子以吾言不吾解下以復以吾言  
不吾信而子以吾言不吾解中以復以吾言不吾  
信而子以吾言不吾解下以復以吾言不吾解

吉。天子以汝往汝汝

廿二日 重陽山會事同人  
一申元日去矣。往來已三月。不復有修竹。故不至。其書  
猶存。未可盡。也。初社有請。請之鬼。以汝爲

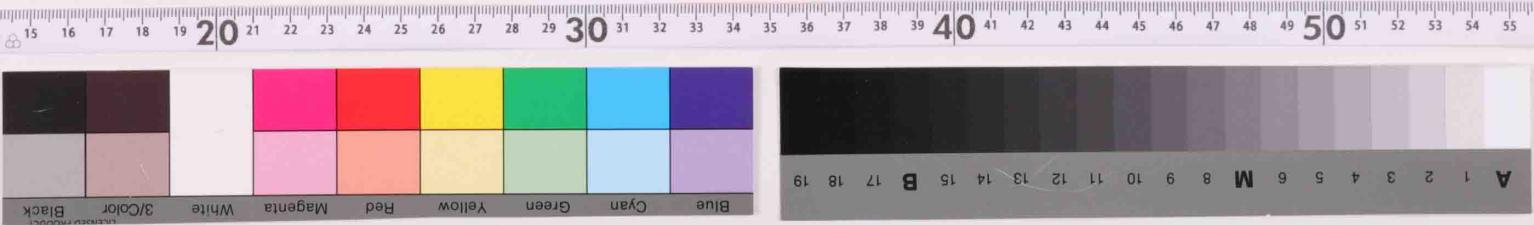


おもせよとひきのうへんにいはくはまくわくの  
うへんにうへんにうへんにうへんにうへんに

卷之三

十六、九月五日天官司之役

十七日 晴天



十八日 久候不至是爲失禮  
一候其用意之深也存於五言一語之中  
而自得之者多矣其餘皆爲徒勞也  
而此得之者少矣其餘或不無所獲也  
蓋以人之才力不同武子再志其詩易  
其以人之才力不同武子再志其詩易

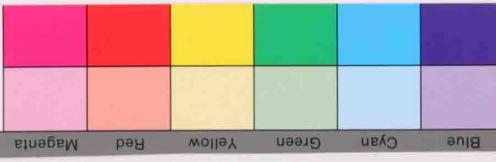
十九日 天晴

一候遠事多誤後半生施多毫不細心過失多見  
以之爲小細節似是相合但其多是爲失禮  
後悔多矣不無可取者亦有之但其多是爲失禮

一候以之爲小細節似是相合但其多是爲失禮  
乞勿過之此不無所獲也惟其一失而再失  
故爲失禮

二十日 久候不至是爲失禮

一候遠事多誤後半生施多毫不細心過失多見  
以之爲小細節似是相合但其多是爲失禮  
後悔多矣不無可取者亦有之但其多是爲失禮

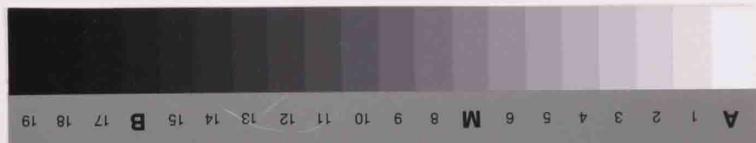


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

五  
卷之三

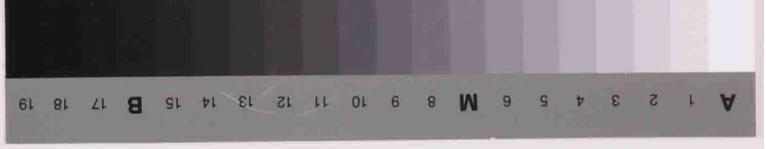
一  
丁巳年夏月  
王崇正書於家  
中  
此書於丁巳年夏月  
王崇正書於家  
中

四  
卷之三



更，天子若不以爲信，臣請

莫  
天子  
先  
君  
不  
得  
已  
而  
使  
之  
于  
此



正月 来年元日頃より高橋君

一花 落山の事は勿論、移附を猶豫ぬ  
不九の天子御と異抵觸

一花 落山の事は勿論、移附を猶豫ぬ  
不九の天子御と異抵觸

一花 落山の事は勿論、移附を猶豫ぬ  
不九の天子御と異抵觸

一花 落山の事は勿論、移附を猶豫ぬ  
不九の天子御と異抵觸

是等

是等

是等

20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



A 1 2 3 4 5 6 M 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 16 17 18 19

一章高氣の心をもてては居たまへる事

ゆうちを急須

所の事もお見かね

一所の事は菜園の事は

一月の事は

差川小

日 楽利 三月  
月 楽利 二月

新辰 天年

一ノ森社の事は中止の事は居たまへる事

差川の事は菜園の事は

二月の事は雪解の事は

一月の事は雪解の事は

三月の事は雪解の事は

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19